

会報 No.295

キャリア・コンサルタント

2019年（令和元年）6月10日

© キャリア・コンサルタント協同組合

[発行] キャリア・コンサルタント協同組合
発行責任者：渡邊 健三
〒102-0052 東京都千代田区神田小川町 1-8-3
小川町北ビル 8F
Tel: 03-3256-4167（代表）
直通電話：営業本部 03-6821-7544
外実事業部 03-6826-7789
Fax: 03-3256-4168

E-mail：[会報編集部] henshu@ccco.jp
[事務局] jimukyoku@ccco.jp
[営業本部] eigyo@ccco.jp
URL： <http://www.occ.or.jp>
<http://www.ccco.jp>
編集長：田中 努
編集者：平松靖弘 影山和子 大野長壽

1. 第24回通常総会を終えて

理事長 渡邊 健三

2. 令和元年の営業方針

理事 榎木 義彦

3. 蜜源植物実態調査（農水省受託事業） （連載第4回）

荻窪研究所 養蜂家 柴田 武

4. 事務局だより

事務局 田中 努

一粒万倍

1. 第24回通常総会を終えて

理事長 渡邊 健三

第24回通常総会が去る5月28日（火）にすべての議案が原案通り承認され、無事終了しました。組合員の皆様のご協力大変ありがとうございました。今後は所轄官庁（3か所）への報告書提出、税務申告、登記をもって完了いたします。

2018年度は、組合員、賛助会員および連携している諸団体・組織の皆様のご協力、ご支援のおかげで、2017年度に増して良い結果を残すことができました。改めて感謝申し上げます。

コンサルティング事業におきましては、特に官公庁の入札案件で多くの受注を獲得することができ、業績向上に大きく貢献をしました。また、受注獲得の経験は、今後の組合事業にとって大変有益な財産となったものと確信しています。

外国人技能実習生受入事業は、技能実習制度の変更があり、受け入れに関する書類作成の複雑化、記録類の作成・保管、報告書類の多様化など、事務作業が大幅に増加しました。2018年度は人手不足の深刻化と相まって技能実習生の受入人数は増加し、良い結果を残すことができました。今後、技能実習生の引き合いは増加する一方ですが、適正な監理体制が必要不可欠なため、状況を慎重に見極めながら、事業拡大を図っていく必要があるものと思います。

セミナー・研修事業は従来からの地道な営業努力が報われてきた年であったと思います。2017年度と比較すると、受講者数の大幅な増加があり、増収増益の好結果につながりました。関係者のご努力に感謝するとともに、引き続きこの勢いを持続していきますよう期待をしております。

今年度2019年度は今までの取り組みを継続し、創意工夫をしながら一層の強化を図ることにより、結果につながっていくものと確信しています。ただ、その中でこのことだけは、常日頃、私たちが心がけておかなければならないことがあります。日本は高齢化がますます進んでいます。当組合にも同じく押し寄せています。組合にとっては、世代交代、事業承継です。組合で受注した案件は、組合が責任をもって対応しなければなりません。一朝一夕には実現は不可能です。新入組合員の勧誘には日頃から心がけて、私たちとともに活動できる方に加入していただき、当組合の事業活性化につなげていきたいと考えます。

最近、東京直下型地震が大きく取りあげられています。自らの身は自ら守るが基本ではありますが、東京都条例をもとに、帰宅困難に対応して事務所における対策を点検し、備えておく必要があると考えます。

最後に、皆様におかれては健康管理には十分注意をし、昨年度に引き続き当組合の事業に、より一層のご協力をお願いいたします。

今期の一年間どうぞよろしく願いいたします。

2. 令和元年の営業方針

理事 営業本部長 榎木 義彦

5月1日より元号が改まり、“令和”となりました。

平成31年4月30日と令和元年の5月1日の間にはいつもと変わらぬ時間の流れがあるのに、“改元”となると何か特別な気持ちになるのは、私が既に前時代の人になっているからなのでしょう。

そうした中で、我々CCKは組合として25期目の節目の事業年度を迎えることになりました。これも何かとの因縁と考え、本年度は昨年度の実績を踏まえて、前向きの営業方針で臨むこととしました。

本年度は、CCKのコンサルティングにとって試練の年でもあります。ISOを始めとする既存の事業が需要の減少と、これまでCCKを支えて来たメンバーの高齢化により、このまま従来のように年度計画を立てそれに従って事業を進めるやり方では組織の衰退は避けられないところに来ています。このことを率直に認め、新たな取り組みを積極的に取り入れ、思い切った転換を図る年とする決意をした次第です。

1. 営業方針の骨子

まず第一に営業体制と仕事をこなす体制の再構築を図ります。昨年度後半に営業本部の要竹内正順氏が急逝され、大幅な戦力低下となったため、岡崎、福田、下斗米3氏に営業会議の常連メンバーになってもらうと共に、それぞれ役割分担を持ち、新たな取り組みを担ってもらうこととします。

具体的には、昨年度に飛躍を遂げた官公庁の入札案件には、今年も先の3名を中心に積極的に取り組むこととし、最低でも受注が大幅に拡大した昨年並みの受注件数・金額を確保したいと考えています。

次に、民間の他機関との提携を含めて活動の幅を従来の点（ISOの単品受注）から、面（研修とソフト開発の複合受注等）に転換するとともに、どのような案件にも柔軟に対応できるよう、受注案件を確実にこなせる人手の確保も並行して考えて行きます。人材の確保についても必ずしも内部体制だけでなく外部との提携による対応も考えます。

第二に重点客先の確保です。先の体制再構築を図りつつも、当面確実に一定の受注が期待できる客先を最低でも数件は確保したいと思います。

第三にAI化・IoT化等急速な発展を遂げているIT関連の仕事を、メンバーがそろって来ているCCKとして1件でも多く受注できるように努めます。

第四に、セミナー・研修事業については、昨年度に成果を上げた受注対策を踏襲すると共に、他のコンサルティング事業の営業活動との相乗効果も図って行きます。

以上の対応（個別の対応は下記）により、本年度は受注の最低目標を 15 百万円に置き、できれば昨年度並みの 20 百万円に届くよう努力して行きたいと考えています。

2. 主な受注案件

(1) 官公庁の入札案件

CCKとして入札に参加できる分野（業種）は、情報・調査・企画・業務請負のランクC（原則1件当たりの受注額が1千万円以下、実際は5百万までの案件が多い）なので、これに見合った案件をきめ細かに拾い出し、計10件の11百万円の受注を目指します。

東京都 本年も主たるターゲットに置き、7件（受注目標8百万円）

東京都区市町村 本年度新規参入 2件（受注目標2百万円）

東京都中小企業振興公社等都の関連機関 1件（受注目標1百万円）

(2) 重点客先の確保

昨年度から継続して東京都自転車商協同組合との関係を強めるとともに、東光青果事業協同組合についても課題が多いことから、積極的にアプローチを進めます。

東京都自転車商協同組合

顧問契約、未回収防犯登録カードの回収促進、支部会計の整理等昨年から受注案件の継続に努めると共に、システムの整備等新規の受注に努めます。（受注目標2百万円）

東光青果事業協同組合

1 昨年に補助金を受けて開発した組合員との取引関係の効率化を図ったシステムの組合員への普及支援・内容の充実を図ります。（受注目標1百万円）

富士ゼロックス

昨年に引き続き、同社客先のIT補助金取得、優遇税制の申請手続等支援の契約を埼玉・千葉両地区につき締結したので、1件でも多くの受注に努めます。（受注目標50万円）

(3) IT関連

上記1、2項に関連するシステム開発以外に客先のAI化・IoT化関連、ホームページ作成・改修、事務処理システム等の中からIT単独での受注を最低1件確保したいと考えています。（受注目標2百万円）

(4) セミナー・研修事業

ビジネスキャリア検定試験の認定講座で、昨年並の30名強の受注を目指す。既にNTT関連会社から継続参加を得ており、引き続き受注確保のため、ホームページ等を通じ広くPRを行います。（受注目標2百万円）
ビジネスキャリア検定試験の認定講座を支える講師の強化を図ります。講師の教科別複数体制に取り組みます。

異業種交流会の開催（年間10回程度）を実施し、CCKの知名度向上、組合事業への協力者確保、組合員増強等につながるベース作りを行います。（受注目標30万円）

以上ですが、毎年申し上げていますように、こうした計画の実行にあたっては、少数の営業関係者の力だけでできるものではなく、組合員・賛助会員挙げてのご協力が不可欠です。従来にも増してのご協力を切にお願いする次第です。

3. 蜜源植物実態調査（農水省受託事業） （連載第4回）

荻窪研究所 養蜂家 柴田 武

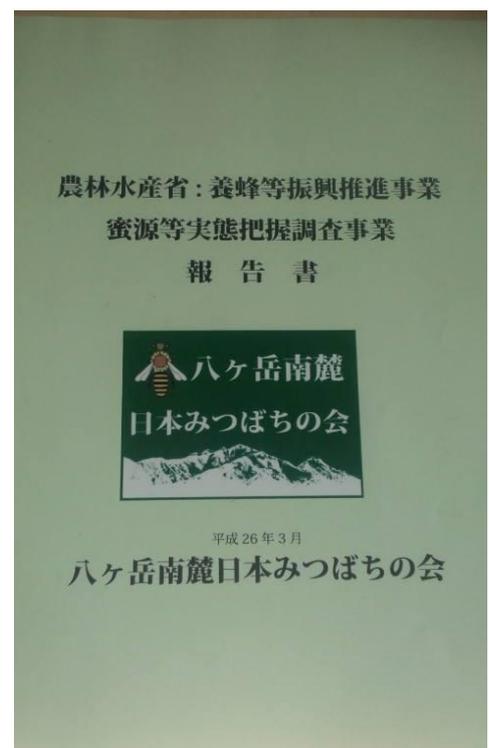
八ヶ岳南麓日本みつばちの会」の設立の主旨や理念としていた中に、ニホンミツバチの棲息環境の維持・向上を図る手段として、花蜜・花粉の豊富な蜜源となる広葉樹、いわゆる**蜜源植物**の植栽活動をうたい、「蜜源植物分科会」を最重要分科会として位置付け、会員の植物の知識吸収、個人環境での植栽、会としての地域植栽等の一連の活動に取り組んできました。

そのような取り組みの中で、当初会員の土地を借用し、蜜源植物演習林として活用させて頂き今日に至っていますが、これからも点から線へ、線から面への拡大へ、更なる広葉樹の植栽活動に励んでもらいたいところです。

また、北杜市オオムラサキセンター（国蝶 オオムラサキの生態観察施設）とのエノキ・クヌギ等の植栽活動に参加するなど、同一の目的を有する地域団体等との共同活動も行い、交流を深めたりもしました。

かような状況の中、2012年6月、ミツバチの法律としては唯一の「養蜂振興法」の改正案が国会にて成立、2013年1月に施行されて、西洋・日本ミツバチを含め養蜂群数の届け出が義務付けられることになりました。

4月 養蜂振興法に盛り込まれた農林水産省補助支援事業「蜜源等実態把握調査



事業」に山梨県・北杜市の支援も得て応募し、全国11か所の申請者のうち、ニホンミツバチの養蜂団体としては唯一、「八ヶ岳南麓日本みつばちの会」が事業を受託。7月 同事業を正式に受託し、玉川大学 名誉教授のご指導のもと、八ヶ岳南麓の大泉の周辺域 約30km²での蜜源樹等の実態調査を実施した。

構成員：会員16人、オブザーバー：北杜市立高校、北杜市オオムラサキセンター

検討会：全体会2回、月例会4回、現場での実態調査4回（3日間／回）

事業決定が7月にずれ込み、実態調査は春季を含まない7月～10月の4ヶ月のみとなりましたが、皆さんの汗と協力で「調査報告書」を農林水産省に提出できました。

- ★1. 会員有志16人の皆さんには、暑い盛夏での12日間の実態調査の他、規定の検討会に加え、前後の準備・取纏め打合わせの他、任意の検討会も随時行われ、真剣な議論や意見交換がなされ、大きな成果となりましたが、多大な苦勞もお掛けした。
- ★2. かように、皆さんの真摯な取り組みもあり、出来上がった報告書や皆さんの取り組みに対し、農水省・山梨県・北杜市の評価も高く、他の受託団体（すべて、西洋ミツバチの関係協会）からも参考にされ、事業受託の規定として調査報告書は山梨県下の市町村に提供された。
- ★3. ただ、翌14年の養蜂振興法に基づく「実態調査」を踏まえた**継続事業**としての「**植栽事業**」は、農水省・山梨県からも、強く申請を勧められましたが、会員の皆さんの賛意が得られず、真に残念ながら、申請を断念しました。
歴史に「もし・・・」は有りえませんが、実現できていたとすれば、ミツバチの棲息環境改善の取り組みへの良き機会となっていたかも・・・。

4. 事務局だより

事務局 田中 努

●5月の気候は五月晴れと言われ、夏を前にさわやかな季節であるはずが、夏のような暑さと湿気で、気象予報士も、半そででもいいとか、羽織るものを持った方がいい、折り畳みの傘をもて、とかやたらに細かい指示を出していました。5月の最高気温が北海道の佐呂間町で39.5°と記録的な暑さとなり、異常現象と言われてもおかしくありません。日本列島も西から夏を迎えるための鬱陶しい雨の季節がやって来ます。関東地方では6月7日に梅雨入りしましたが、梅雨入りと同時に梅雨の晴れ間と梅雨寒という自然現象に見舞われています。

●平松事務局長はその後5月18日に退院して、自宅療養に入りました。6月の3日から3日間の検査入院の結果、心臓以外の他の臓器にも異常が見られ、26日に再検査をするとのこと。従って事務局への出勤はまだまだ先の事と思われます。平松氏が出勤してからと伸ばしていた事務について、早急に対策を立てねばなりません。

●5月28日(火)に第24回通常総会が開催され、議案はすべて、全員意義がなく承認されました。第24期の決算では、税務申告上の繰越赤字も一掃され、法人税を支払い、漸く一人前の決算になりました。剰余金の処分では、積立金等も合計で35万円が積み増しされ、繰越利益も25万円となりました。これは組合員及び賛助会員の常日頃の努力の賜と思います。総会終了後、会場を「ひなたガーデン」に移し、懇親会が開催され、和気あいあいのうちに、一日が終了しました。

●6月の行事等の予定(6月10日現在)

- 11日(火) 運営会議
- 12日(水) 営担会議(10:30)、
- 13日(木) BCセミナー経戦2 NTT(10:00)
- 18日(火) 理事会(13:00)、研修の集(16:00)
- 19日(水) 営担会議(10:30)
- 20日(木) BCセミナーMK2 NTT(10:00)
- 22日(土) BCセミナー経戦2C(10:00)
- 26日(水) 営担会議(10:30)
- 27日(木) BCセミナー経戦2 NTT(10:00)
- 30日(日) BCセミナー営③個人

●7月の行事等の予定(6月10日現在)

- 3日(水) 事業部長会、セミナー研修部会
- 5日(金) 運営会議(10:30) 応接室、BCセミナーMK2 NTT(10:00)
- 7日(日) BCセミナーMK2(10:00)
- 10日(水) 営担会議(10:30)、
- 12日(金) BCセミナー経戦2 NTT(10:00)
- 14日(日) BCセミナー営③(10:00)
- 16日(火) 理事会(13:00)、Pマーク研修(16:00)
- 17日(水) 営担会議(10:30)
- 18日(木) BCセミナーMK2 NTT(10:00)
- 21日(日) BCセミナー経戦2(10:00)
- 24日(水) 営担会議(10:30)
- 25日(木) BCセミナー経戦2 NTT(10:00)
- 27日(土) BCセミナーMK2
- 31日(水) 営担会議(10:30)

一粒万倍

▲米国のドナルド・トランプ大統領が、国賓として5月25日に来日し4日間にわたって我が国に滞在しました。安倍晋三首相がつきっきりでお相伴をし、日米親善を深めたようです。令和の天皇陛下にとっても初の国賓招待であり、宮中晩餐会にも多くの人たちが招かれました。今後米国が日本に何を要求し来るのか、7月の参議院選挙後のことらしい。その後同盟国と思われる英国を訪問しているが、日本とは少し様子が異なり、「デモ」が行われているようです。

▲今度は刃物による殺人が頻発しています。川崎の登戸では「引きこもり」の男性が小学生に対し無差別な殺人行為を行い、小学生を含む死者2名と負傷者18名が被害に会いました。その後犯人は同じ刃物で自殺しました。別件では事務次官まで務めた人が、「引きこもり」の息子を殺害した。最近「引きこもり」人間が大きな話題になっていますが、学校の生徒ばかりではなく、4~50代の男性に多いようです。

▲「引きこもり」とは厚生労働省によると「仕事や学校に行かず、家族以外との交流がなく、6ヶ月以上自宅に引きこもっている者」と定義しています。また、内閣府によると引きこもり者は61万3千人で、そのうち3/4は男性であると発表されています。原因はいじめによる不登校や、成人後の退職、失業、無職、ニート、独身などで、8050問題（親と同居する未婚者）として中高年の「引きこもり」が大きな社会問題化しています。

▲交通機関の無人運転化が進められている中、横浜市の新交通システム「シーサイドライン」で自動運転中の車両が逆走し、車止めに激突して14名が重軽傷を負いました。AIによる自動運転が叫ばれている中での事故で、国では運輸安全委員会の鉄道事故調査官を派遣して、原因を調査しているがなかなか結論が出ないようです。日本では現在8か所で鉄道の完全自動運転が行われており、JR山手線でも実験が進んでいるが、鉄道の完全自動化運転に課題を残す結果となりました。

▲2018年度の特異合計出生率が1.42と厚生労働省から発表されました。出生数も91万8千人であり、出生率は2005年（平成17年）の1.26を最低として、以後徐々に上昇して来ましたが、頭打ちになりました。また、出生数は戦後の最低を記録しました。一方では人生百年の時代と言われ、少子高齢化が益々進むようです。金融庁によれば、退職後の年金生活では、最低2千万円の貯えが費用と言われているが、それまでに住宅ローンもあり、今後は高齢者も隠居出来ずに働かねばならないようです。一方当組合の組合員の高齢化は世間より進み方が早いようで、世代交代が急がれています。